

乍恐奉願

口上之覚

- 一 当暮上納銀五貫目之儀來ル
廿日迄ニ相納候様被仰付候義
先達御断申上候通困窮之
私義家錄之魚鳥口錢を以
返納仕候より外ハ手段も
無御座候得共又々何角と
御願申上候義も重々奉恐入候間
御取上ヶ被為遊仰付候口錢五貫目□
ニ□辻ニ相積り候迄ハ質物
二而も指出拝借御願申上度
質物之儀ハの浪屋助治郎より
貸し呉レ申筈ニ御座候之處
当夏御納戸御銀拝借之儀
のなミ屋樋太郎手代源助を以
御願申上候処 御聞届被
仰付候ニ付相認メ證文指出候處又々
拝借不被仰付之旨右
證文之儀ハ源助方江
- 留メ置候由依之此度上納銀ニ右質物
入用ニ付源助ヘ指返候様ニ
助二郎より申遣候得共近年源助より
助治郎少し取替銀共御座候ニ付
御納戸當之證文押□□□
- 指返し不申候、併御納戸當之
證文を他領へ差入候由源助より
申立候趣取拝候義とハ奉存候得共
当木も助治郎義も至ニ奉恐入候、勿論
助治郎義も右上納之義ニ付候而ハ
本人私同様之身分ニ
御座候得者片時早く上納
仕迄奉存候得共右等之
拒障御座候ニ付上納銀及
延引候段重々奉恐入候

素り助治郎義必至極及困窮

当分渡世難相成倒惑存

龜奉候得者右質物より外ハ

少も方便無御座候間、何分源助より

留置候御納戸當り之質入

證文之儀為返し候様

被仰付被下様奉願候、差返候ハヽ、

候^(マ)ハヽ、右上納之

引当仕度奉存候、此段

宜様被仰上可被下候、奉願候、以上

大谷九右衛門

丑十二月十九日

宮本助右衛門殿